

令和元年度（平成31年度）

和歌山信愛大学

自己点検・評価報告書

令和2年5月

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、平成 31 年 4 月に開学した和歌山信愛大学の令和元年度（平成 31 年度）の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

令和 2 年 5 月 29 月

令和2年5月
和歌山信愛大学

理事長

森田 登志子

学長

森田 登志子

ALO

秋吉 博之

【目次】

1. 令和元年度（平成 31 年度）開講授業科目における自己点検・
評価
2. 事務部門における自己点検・評価

1. 平成 31 年度開講授業科目における
自己点検・評価

和歌山信愛大学 令和元年度（平成31年度）開講授業科目における自己点検・評価（前期）

		年度	2019	2019	2019
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	大山輝光	小林康宏	辻 伸幸
		授業者数	1	1	1
Q	1	授業名	情報処理論	日本語表現	英語コミュニケーションⅠ
		授業数	1	1	1
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	1	0
Q	2	2. 演習	0	0	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	1	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	1	0
Q	3	4. その他 具体的に：		群読の実技 自己紹介の実技	授業での各活動への参加
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	0	0
Q	5	2. やや思う	0	1	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	1	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	1	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	必要に応じて実践演習を取り入れて授業を行い、知識の定着を図った。	・主体性を高めるために、授業の最初に、本時の学修課題と課題解決への見通しを共通理解させた。 ・必要感を高めるために、本時の学修が大学および社会人生活の中、どんな場面で必要になるかを説明した。 ・授業内容の理解を深めるために、PPのスライドは1枚に入れる情報量を精選すると共に、アニメーションを使い、学生が注目する場面を焦点化させた。 ・モデルを示し、活動の具体的な姿を思い描かせたうえで、各活動への取り組みをさせた。	授業内容の十分理解ができていないと考える学生に対しては、課外の補習授業を実施した。協働的な学び合いによる活動を導入した。 また、教具については、リスニング力の向上が期待される器具を使用した。この教具に対する学生の意見は、肯定的な意見が多かった。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	1	1	1
Q	9	2. やや思う	0	0	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例	シラバスの記載内容を改善し、活用する機会を増やしたい。	・シラバスの活用について;第1回目の授業での授業の構造の説明を丁寧に行う。 ・予復習について;予復習クイズをつくり、必ず予復習をする環境を作る。 ・授業進度について;活動に時間のかかる学生に合わせていると必要な学習事項を指導することができない。1年生前期の授業の段階から、100分間集中して、無駄な時間をつくらず学ぶ必要があることを自覚させたい。以上を第1回目の授業で学生に説明し、テンポよく授業を進めていく。	さらに、学生の意見を精査して、英語のコミュニケーション能力を高める授業改善を進めなければと考えている。また、音声面での学習を強化するため、学内のICT環境を活用して、授業外での学習課題に取り組めるような手立てを計画していきたい。

	年度	2019	2019	2019
	期	前期	前期	前期
Q 1	授業者	森崎 陽子	辻伸幸	小田真弓
	授業者数	1	1	1
Q 1	授業名	スポーツと健康 I	教職基礎実習	教職基礎実習
	授業数	1	1	
Q 2	授業の形態			
Q 2	1. 講義	1	0	0
Q 2	2. 演習	0	0	0
Q 2	3. 実験	0	0	0
Q 2	4. 実習・実技	0	1	1
Q 3	成績評価の方法			
Q 3	1. 期末試験	1	0	0
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q 3	3. レポート	0	1	1
Q 3	4. その他 具体的に：	ノート		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4	1. そう思う	1	0	0
Q 4	2. やや思う	0	0	0
Q 4	3. あまり思わない	0	0	0
Q 4	4. そう思わない	0	0	0
Q 4	5. 該当しない	0	0	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫			
Q 5	1. そう思う	1	0	0
Q 5	2. やや思う	0	1	1
Q 5	3. あまり思わない	0	0	0
Q 5	4. そう思わない	0	0	0
Q 6	シラバス等の工夫			
Q 6	1. そう思う	0	0	0
Q 6	2. やや思う	1	1	1
Q 6	3. あまり思わない	0	0	0
Q 6	4. そう思わない	0	0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7	1. そう思う	1	0	0
Q 7	2. やや思う	0	1	1
Q 7	3. あまり思わない	0	0	0
Q 7	4. そう思わない	0	0	0
Q 8	改善や工夫の具体的事例			
Q 8	具体的事例	講義の授業ではあるが、講義内容に関連する室内で可能な測定や運動を行い、より理解が深まるよう工夫した。	教育現場や保育現場の状況を学生が把握しやすいようにするため実務家教員が担当した。	担当の事前指導は1回(50分)であるので、効率よく説明するためにくわしい資料を作成した。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9	1. そう思う	1	1	1
Q 9	2. やや思う	0	0	0
Q 9	3. あまり思わない	0	0	0
Q 9	4. そう思わない	0	0	0
Q 10	改善点があれば 具体的			
Q 10	具体的事例	本授業のねらいは、運動の必要性を受講者に訴えるものであると考えている。今後の課題は「学んだことをいかに実践に結び付けるか」でありその点を工夫していきたい。	実習の事前指導の時間的な不足が判明したので、拡充する必要がある。	実習の事前指導は、教職キャリアデザイン50分授業1回から、次年度は、回数を増やして、事前指導を行う必要がある。

		年度	2019
		期	前期
Q	1	授業者	木本毅
		授業者数	1
Q	1	授業名	教職論
		授業数	1
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	1
Q	2	2. 演習	0
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1
Q	3	3. レポート	1
Q	3	4. その他 具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	1
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	1
Q	6	2. やや思う	0
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	0
Q	7	2. やや思う	1
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	Q5は、前期より教職論においては、「教職の社会的意義」「教師に求められる資質・能力」「教員の職務」「学習理論と教授・指導法」「わかる授業・力の付く授業の創造」「就学前教育の在り方」等、項目ごとに必修事項をまとめて具体的事例を踏まえて教科書を編集した。後期の教育制度論においても、同様の観点で教科書を編集している。 Q6については、前期より、復習を徹底させるため、その日の講義をまとめて次週講義時にレポート提出することを義務付けている。加えて、3～4回分の提出レポートに基づき、小テストを実施している。後期も同様である。 Q7については、具体的事例を多用するよう心掛けて教科書を編集している。とりわけ、教育制度論においても、教育の歴史・思想・哲学、戦後の教育改革、教育行政の法律主義、学習指導要領の理念・趣旨等、理念的・理論的な側面が多いだけに具体例・参考事例の多用・引用に心掛けている。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	1
Q	9	3. あまり思わない	0
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	Q9について、講義のペースを少しダウンすることも考えている。 今回の学生アンケートについて、評価が3.5を下回るものに以下の項目がある。「シラバスは学習上役立つか」があるが、ほぼシラバス通りに講義をしているのにこの評価は納得できない。そもそもこのQは、不要でないだろうか。「授業の進度」については、教員採用検査必修事項は、全て網羅して指導している関係上、教授の内容が多岐・膨大になることから（上記の教職論、教育制度論のシラバス例）、進度に一定のスピードが求められるのは止む負えないと考える。「機器を用いる説明」については、書画カメラに大型のスクリーンがないことも評価が低い一要因であると考えられる。「学びあう機会」の重要性は理解できるが、教科として指導すべきことを全て網羅しているため、講義に議論・討論する時間的余裕がないことから、低い評価は止む負えないことである。教科・講義の特質上、そのような時間が取れないこともありうることから、この評価を全教科一律に求めることには、一考の余地がある。

	年度	2019	2019	2019
	期	前期	前期	前期
Q 1	授業者	森下 順子	戸潤幸夫	溝口希久生
	授業者数	1	1	1
Q 1	授業名	保育原理	図画工作 I	音楽 I
	授業数	1	1	1
Q 2	授業の形態			
Q 2	1. 講義	1	0	0
Q 2	2. 演習	0	1	1
Q 2	3. 実験	0	0	0
Q 2	4. 実習・実技	0	0	0
Q 3	成績評価の方法			
Q 3	1. 期末試験	1	0	1
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1
Q 3	3. レポート	1	0	0
Q 3	4. その他 具体的に：		制作した作品、演習中の取り組み姿勢、演習カードの記述内容	
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4	1. そう思う	1	0	0
Q 4	2. やや思う	0	0	0
Q 4	3. あまり思わない	0	0	0
Q 4	4. そう思わない	0	0	0
Q 4	5. 該当しない	0	0	1
Q 5	意欲的に参加できるような工夫			
Q 5	1. そう思う	1	1	1
Q 5	2. やや思う	0	0	0
Q 5	3. あまり思わない	0	0	0
Q 5	4. そう思わない	0	0	0
Q 6	シラバス等の工夫			
Q 6	1. そう思う	0	0	0
Q 6	2. やや思う	1	1	1
Q 6	3. あまり思わない	0	0	0
Q 6	4. そう思わない	0	0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7	1. そう思う	1	1	1
Q 7	2. やや思う	0	0	0
Q 7	3. あまり思わない	0	0	0
Q 7	4. そう思わない	0	0	0
Q 8	改善や工夫の具体的事例			
Q 8	具体的事例	前回の授業アンケートというのは、これまで勤務していた短期大学の同科目である。理論的な内容が多いため、現場を見学するという課題を課し、理論と現実をつなげることを試みた。見学先等への連絡や調整をすべて行い準備等に負担感があったが、着実に学生の学びは深まったことが、学生のレポートにより確認できた。	保育・教育現場で実際活用可能な演習カードを作成し、配布した。また、学習環境も現場実践に繋がるように工夫した。	学生が共同して取り組む音楽活動や表現を発表する場を多く取り入れた。さらに授業の音楽経験と学習指導要領の指導事項と照らし合わせて学生に音楽科の教科内容の概念化を図った。また授業後に毎回リフレクションシートに学びと課題を記述させ、具体的に振り返る機会を設けた。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9	1. そう思う	0	0	1
Q 9	2. やや思う	1	0	0
Q 9	3. あまり思わない	0	1	0
Q 9	4. そう思わない	0	0	0
Q 10	改善点があれば 具体的			
Q 10	具体的事例	授業に関する予習・復習への取組の意欲が課題である。しかし、見学のレポートや、子どもの関する時事問題のレポート等、課題も遅れることなく全員が提出し非常に優秀であるところは評価できる。しかし、これが予習・復習の一つであることの意識が学生にはなかったような気がする。次回は、予習・復習に関して丁寧に説明し理解を深めさせたいと考える。	全体的に高評価をいただき、後期も同じような満足度の高い授業にしよう取り組みたい。 シラバス内容と変更する場合、事前に変更理由と内容を周知したい。	初心者には、基礎的な読譜力の指導を随所に取り入れる必要がある。

	年度	2019	2019	2019
	期	前期	前期	前期
Q 1	授業者	桐山由香	秋吉博之	溝口希久生
	授業者数	1	1	1
Q 1	授業名	音楽 I	生活 I	鍵盤演奏入門
	授業数		1	1
Q 2	授業の形態			
Q 2	1. 講義	0	0	0
Q 2	2. 演習	1	1	1
Q 2	3. 実験	0	0	0
Q 2	4. 実習・実技	0	0	0
Q 3	成績評価の方法			
Q 3	1. 期末試験	1	1	1
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q 3	3. レポート	0	0	0
Q 3	4. その他 具体的に：			平常点は各授業での実技の評価し、期末試験は、実技のテストを発表会形式で行った。
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4	1. そう思う	0	0	0
Q 4	2. やや思う	0	0	0
Q 4	3. あまり思わない	0	0	0
Q 4	4. そう思わない	0	0	0
Q 4	5. 該当しない	0	1	1
Q 5	意欲的に参加できるような工夫			
Q 5	1. そう思う	1	1	1
Q 5	2. やや思う	0	0	0
Q 5	3. あまり思わない	0	0	0
Q 5	4. そう思わない	0	0	0
Q 6	シラバス等の工夫			
Q 6	1. そう思う	1	1	0
Q 6	2. やや思う	0	0	1
Q 6	3. あまり思わない	0	0	0
Q 6	4. そう思わない	0	0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7	1. そう思う	1	1	1
Q 7	2. やや思う	0	0	0
Q 7	3. あまり思わない	0	0	0
Q 7	4. そう思わない	0	0	0
Q 8	改善や工夫の具体的事例			
Q 8	具体的事例	演習の形態を、一斉・グループ・個人等、課題によって変えた。	学生に主体性を持たせて発表することで授業を進めた。互いに学びあう機会を多く設定した。	シラバスの内容は、学生の個々の実態に応じて授業を行っていたので、授業内容と相違があった面も多い。今年度の授業を振り返り、シラバスの内容の改善を行いたい。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9	1. そう思う	0	1	1
Q 9	2. やや思う	1	0	0
Q 9	3. あまり思わない	0	0	0
Q 9	4. そう思わない	0	0	0
Q 10	改善点があれば 具体的			
Q 10	具体的事例	グループ活動のときの構成メンバーの検討。	新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を設定したが、入学間もない時期にその趣旨を理解できない学生もいた。事前のオリエンテーション等で授業の進め方を十分に説明すべきであった。今後、工夫・改善をしていきたい。	実技や読譜力には、経験者と初心者に大きな開きがあるが、アンケート結果を受けて、やはり初心者に焦点をあてることや意欲的に練習ができる授業内容や指導を心がけることを再認識した。

		年度 期	2019 前期	集計
Q	1	授業者	桑原 義登	
		授業者数	1	14
Q	1	授業名	発達心理学	
		授業数	1	12
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	6
Q	2	2. 演習	0	6
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	2
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	11
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	13
Q	3	3. レポート	0	5
Q	3	4. その他 具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	2
Q	4	2. やや思う	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	4
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	0	9
Q	5	2. やや思う	1	5
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	3
Q	6	2. やや思う	1	9
Q	6	3. あまり思わない	0	2
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	0	9
Q	7	2. やや思う	1	5
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例		
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	1	10
Q	9	2. やや思う	0	3
Q	9	3. あまり思わない	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	話すだけでなくグループワークなどもう少し参加型の授業を多くしていくようにしたい。	

和歌山信愛大学 令和元年度（平成31年度）開講授業科目における自己点検・評価（後期）

	年度	2019	2019
	期	後期	後期
Q 1	1 授業者	星野正道	星野正道
Q 1	1 授業名	信愛教育 1	いのちと倫理
Q 2	2 授業の形態		
Q 2	1. 講義	0	1
Q 2	2. 演習	1	0
Q 2	3. 実験	0	0
Q 2	4. 実習・実技	0	0
Q 3	3 成績評価の方法		
Q 3	1. 期末試験	1	1
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0
Q 3	3. レポート	0	0
Q 3	4. その他 具体的に：	リアクションペーパー 発表 積極的な授業参加	積極的授業参加 小グループ討議への積極性 ファシリテーター役への取り組み
Q 4	4 前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1. そう思う	0	0
Q 4	2. やや思う	0	0
Q 4	3. あまり思わない	0	0
Q 4	4. そう思わない	0	0
Q 4	5. 該当しない	0	0
Q 5	5 意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1. そう思う	1	1
Q 5	2. やや思う	0	0
Q 5	3. あまり思わない	0	0
Q 5	4. そう思わない	0	0
Q 6	6 シラバス等の工夫		
Q 6	1. そう思う	1	1
Q 6	2. やや思う	0	0
Q 6	3. あまり思わない	0	0
Q 6	4. そう思わない	0	0
Q 7	7 授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1. そう思う	1	1
Q 7	2. やや思う	0	0
Q 7	3. あまり思わない	0	0
Q 7	4. そう思わない	0	0
Q 8	8 改善や工夫の具体的事例		
Q 8	8 具体的事例	数人のリアクションペーパーの紹介を通して身近な仲間がどのようにこの授業を理解しているかを知らせる。仲間の視点を知ることによって各人の視点を発見しそれを深め表現するよう指導した。当該教科の予習復習は机上のものばかりでなくふだんの生活の中で学んだことを応用したり考えたりすることも含むことを伝えふだんから意識的に自分で考え発見する要素が大きいことを再確認した。	グループ・ディスカッションを取り入れた。ファシリテーターの役割を説明し実際に順番に行ってみた。ファシリテーターをした者は全員の前で自分のグループの様子と自分の意見を発表してもらった。ふだんの生活やテレビニュースに触れながら授業で扱ったテーマを考えてみることも非常に大切な予習復習であることを発信した。
Q 9	9 授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1. そう思う	1	1
Q 9	2. やや思う	0	0
Q 9	3. あまり思わない	0	0
Q 9	4. そう思わない	0	0
Q 10	10 改善点があれば 具体的		
Q 10	10 具体的事例	学生にわかりやすい事例などを取り上げたり、学生の生活に密着したたとえをもって説明するために現代の若者の思考や興味・関心を知る努力を継続する。学生との日常的対話の機会を大切にします。	グループ・ディスカッションをスムーズに行うために一人ひとりどういった考えを持っているかを内省しノートに記録させることをやってみようと思う。またディスカッションが終わった後自分の考えがどのように広がったかも筆記させようと思う。

		年度	2019	2019
		期	後期	後期
Q 1		授業者	森崎陽子、江口怜	辻伸幸
Q 1		授業名	ボランティア実習	英語コミュニケーションⅡ
Q 2		授業の形態		
Q 2		1. 講義	0	0
Q 2		2. 演習	0	1
Q 2		3. 実験	0	0
Q 2		4. 実習・実技	1	0
Q 3		成績評価の方法		
Q 3		1. 期末試験	0	1
Q 3		2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1
Q 3		3. レポート	1	0
Q 3		4. その他 具体的に：	実習中における積極的な受講態度	自身の英語音声録音ファイル提出
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4		1. そう思う	0	0
Q 4		2. やや思う	0	0
Q 4		3. あまり思わない	0	0
Q 4		4. そう思わない	0	0
Q 4		5. 該当しない	1	0
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5		1. そう思う	1	1
Q 5		2. やや思う	0	0
Q 5		3. あまり思わない	0	0
Q 5		4. そう思わない	0	0
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6		1. そう思う	0	0
Q 6		2. やや思う	1	0
Q 6		3. あまり思わない	0	1
Q 6		4. そう思わない	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7		1. そう思う	1	0
Q 7		2. やや思う	0	1
Q 7		3. あまり思わない	0	0
Q 7		4. そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例	学生が自発的・意欲的にボランティア活動に参加できるよう、事前ガイダンス、中間ガイダンスを行った。事後ガイダンスでは、ボランティア活動で学んだ内容を自覚できるよう、振り返りの機会を設けた。また、日常的にボランティアの情報を学生に発信し、相談があった場合は個別に助言等を行った。	授業では、教科書にプラスしてハロウィーンやクリスマスの時期に特別コンテンツを作成し、協働学習スタイルで実施した。学生の興味関心を高めることができたというアンケートの自由記述を得た。 後期は、英語の音声課題を練習してから、自身で声を録音して提出する課題を毎週行った。学生アンケートからは、英語力向上に役に立ったと評価を得た。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9		1. そう思う	0	1
Q 9		2. やや思う	1	0
Q 9		3. あまり思わない	0	0
Q 9		4. そう思わない	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的		
Q 10		具体的事例	ただ漫然とボランティア活動に参加するだけでなく、ボランティア活動を通じた学びに結び付けるために、事前・活動中・事後に適切な情報提供や指導を行っていきたい。	英語力の下位層の者は、英検2級のポストテストでリスニング力が有意に伸びたが、上位層の者には差がなかった。したがって、上位層の者の英語力が伸びる教材や課題の工夫を考えたい。

		年度	2019	2019
		期	後期	後期
Q 1		授業者	大山輝光	森崎 陽子
Q 1		授業名	情報処理演習Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ
Q 2		授業の形態		
Q 2	1.	講義	0	0
Q 2	2.	演習	1	0
Q 2	3.	実験	0	0
Q 2	4.	実習・実技	0	1
Q 3		成績評価の方法		
Q 3	1.	期末試験	1	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	0
Q 3	3.	レポート	1	0
Q 3	4.	その他 具体的に：		授業ノート・夏期休暇中課題レポート・実技 によって評価を行った。
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1.	そう思う	1	0
Q 4	2.	やや思う	0	0
Q 4	3.	あまり思わない	0	0
Q 4	4.	そう思わない	0	0
Q 4	5.	該当しない	0	1
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1.	そう思う	1	0
Q 5	2.	やや思う	0	1
Q 5	3.	あまり思わない	0	0
Q 5	4.	そう思わない	0	0
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6	1.	そう思う	0	0
Q 6	2.	やや思う	1	1
Q 6	3.	あまり思わない	0	0
Q 6	4.	そう思わない	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1.	そう思う	1	0
Q 7	2.	やや思う	0	1
Q 7	3.	あまり思わない	0	0
Q 7	4.	そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例	学生の持つ知識・技能が、シラバス作成時に想定していたよりも高いことに加え、互いに学び合いながら極めて積極的に受講している様子がうかがえたため、さらに高度で新しい内容を取り入れて授業を実施した。	学生には毎時間、行った実技の内容、方法、留意点等の記録をとりノートに整理し提出してもらっている。担当者はそれを点検し、学生の理解度、抱えている問題点や課題を把握できるように努め、次の授業に反映させている。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1.	そう思う	1	1
Q 9	2.	やや思う	0	0
Q 9	3.	あまり思わない	0	0
Q 9	4.	そう思わない	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的		
Q 10		具体的事例	2020年度より小学校でプログラミング教育が必修化する。また、県内では、プログラミング教育に対する確かな知識・技能を備えた教員養成に対するニーズが高まっている。これらに対応できるよう、授業内容の見直しを急ぐ必要がある。	今後の改善点は、授業ノートを担当教員の授業改善に活用するだけに留めないことである。その為に授業内に学んだ事を学生同士が共有し合える時間を設けたいと考えている。そこで、受講者全体の技能・理解力を高めるために互いに考え工夫し合い、指導者としての意識の向上を図る等、学びを深めてもらいたい。

		年度	2019	2019
		期	後期	後期
Q 1		授業者	辻伸幸	大山輝光
Q 1		授業名	教職キャリアデザイン	教職基礎ゼミ
Q 2		授業の形態		
Q 2	1.	講義	1	0
Q 2	2.	演習	0	1
Q 2	3.	実験	0	0
Q 2	4.	実習・実技	0	0
Q 3		成績評価の方法		
Q 3	1.	期末試験	0	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0	0
Q 3	3.	レポート	1	1
Q 3	4.	その他 具体的に：		口頭発表配布資料、発表内容
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1.	そう思う	0	0
Q 4	2.	やや思う	0	0
Q 4	3.	あまり思わない	0	0
Q 4	4.	そう思わない	0	0
Q 4	5.	該当しない	0	1
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1.	そう思う	1	1
Q 5	2.	やや思う	0	0
Q 5	3.	あまり思わない	0	0
Q 5	4.	そう思わない	0	0
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6	1.	そう思う	0	0
Q 6	2.	やや思う	1	1
Q 6	3.	あまり思わない	0	0
Q 6	4.	そう思わない	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1.	そう思う	0	1
Q 7	2.	やや思う	1	0
Q 7	3.	あまり思わない	0	0
Q 7	4.	そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例	自身のキャリアデザインに資するため外部の多様なゲストティーチャー（幼稚園教諭、小学校教諭、県教育委員会人事担当、カウンセラー等）を招聘し、学生から好評であった。	学生が授業に意欲的に参加できるように、授業内容の理解が深めやすいように、教材研究は当然ながら、授業運営の工夫として少人数のグループ編成を企画した。また、学生相互の交流を図るために幾種類ものグループ編成を実施した。予習・復習を進めるために、シラバス以外に各回別の進行表、学習内容一覧表を作成し、配布した。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1.	そう思う	0	0
Q 9	2.	やや思う	1	1
Q 9	3.	あまり思わない	0	0
Q 9	4.	そう思わない	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的		
Q 10		具体的事例	保育や小学校でのキャリアに重点を置いていたので、その他のキャリアについても考えることができるように、その機会を確保したい。	グループ編成が多岐にわたり、かえって授業運営がしにくかったので次年度はスリム化する。 各回の主担当者とその他の教員の関り方が難しかったので、主担当者を中心にしながら、かつ少人数制を実現できるように授業運営を改善、工夫する。

		年度	2019	2019
		期	後期	後期
Q 1		授業者	辻伸幸	千森督子、江口怜
Q 1		授業名	教職基礎実習	地域連携フィールド学習
Q 2		授業の形態		
Q 2	1.	講義	0	0
Q 2	2.	演習	0	0
Q 2	3.	実験	0	0
Q 2	4.	実習・実技	1	1
Q 3		成績評価の方法		
Q 3	1.	期末試験	0	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	0
Q 3	3.	レポート	1	1
Q 3	4.	その他 具体的に：		調べ学習の成果物・プレゼン、実習準備中や実習中における積極的な受講態度
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1.	そう思う	0	0
Q 4	2.	やや思う	0	0
Q 4	3.	あまり思わない	0	0
Q 4	4.	そう思わない	0	0
Q 4	5.	該当しない	0	1
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1.	そう思う	1	1
Q 5	2.	やや思う	0	0
Q 5	3.	あまり思わない	0	0
Q 5	4.	そう思わない	0	0
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6	1.	そう思う	0	0
Q 6	2.	やや思う	1	1
Q 6	3.	あまり思わない	0	0
Q 6	4.	そう思わない	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1.	そう思う	0	0
Q 7	2.	やや思う	1	1
Q 7	3.	あまり思わない	0	0
Q 7	4.	そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例	実習の事前事後指導を教職キャリアデザインと連携できた。実習校との密な連絡や打ち合わせで、質の高い実習を行うことができた。	フィールド学習のため、受け入れ先自治体（日高川町）との交渉や打ち合わせによって、学習内容が変化し得る点が特徴の授業である。初年時に行政や地域住民等との関係を構築できたため、翌年度はより充実した内容に改善したい。また、学生への独自アンケート結果より、事前学習の有効性が示されたため、引き続き、事前学習・事後学習の内容を工夫することで学習効果を高めていきたい。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1.	そう思う	1	0
Q 9	2.	やや思う	0	1
Q 9	3.	あまり思わない	0	0
Q 9	4.	そう思わない	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的		
Q 10		具体的事例	事前事後指導の時間が少なかったため、量的に増やす方向である。	全体的に評価が高く、授業内容・構成の有効性が示されたため、より効果が高まるように工夫していく。

		年度	2019	2019
		期	後期	後期
Q 1		授業者	木本毅	戸潤幸夫
Q 1		授業名	教育制度論	図画工作 II
Q 2		授業の形態		
Q 2	1.	講義	1	0
Q 2	2.	演習	0	1
Q 2	3.	実験	0	0
Q 2	4.	実習・実技	0	0
Q 3		成績評価の方法		
Q 3	1.	期末試験	1	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	0
Q 3	3.	レポート	1	0
Q 3	4.	その他 具体的に：		学習への取り組み状況、制作物の評価、演習カード等
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1.	そう思う	0	1
Q 4	2.	やや思う	0	0
Q 4	3.	あまり思わない	1	0
Q 4	4.	そう思わない	0	0
Q 4	5.	該当しない	0	0
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1.	そう思う	1	1
Q 5	2.	やや思う	0	0
Q 5	3.	あまり思わない	0	0
Q 5	4.	そう思わない	0	0
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6	1.	そう思う	1	0
Q 6	2.	やや思う	0	0
Q 6	3.	あまり思わない	0	1
Q 6	4.	そう思わない	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1.	そう思う	1	1
Q 7	2.	やや思う	0	0
Q 7	3.	あまり思わない	0	0
Q 7	4.	そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例	毎回講義後のレポート作成の充実を指導するとともに、次時講義の初めにその内容を発表させた。また、小テストの回数を3回に増やした。	日々学生が積極的に授業が望めるように、現場で役立つ教材を開発している。また、学習環境をスムーズに作業に入れるように整えている。毎回現場で参考にできるように、演習カードを工夫し作成している。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1.	そう思う	0	0
Q 9	2.	やや思う	0	1
Q 9	3.	あまり思わない	1	0
Q 9	4.	そう思わない	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的		
Q 10		具体的事例	特記事項なし。	学生の予習復習に対する項目が評価が低い点について、1回完結の授業展開を進めていることと、また、特別な材料や用具を扱うため家庭学習ができないことが要因と言える。次回のアイデアを考えてくることが事前学習である。

		年度	2019	2019
		期	後期	後期
Q 1		授業者	溝口希久生	桐山由香
Q 1		授業名	音楽Ⅱ	音楽Ⅱ
Q 2		授業の形態		
Q 2	1.	講義	0	0
Q 2	2.	演習	1	1
Q 2	3.	実験	0	0
Q 2	4.	実習・実技	0	0
Q 3		成績評価の方法		
Q 3	1.	期末試験	0	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q 3	3.	レポート	1	1
Q 3	4.	その他 具体的に：	授業での個々の表現活動も評価する。	
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1.	そう思う	0	1
Q 4	2.	やや思う	1	0
Q 4	3.	あまり思わない	0	0
Q 4	4.	そう思わない	0	0
Q 4	5.	該当しない	0	0
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1.	そう思う	1	1
Q 5	2.	やや思う	0	0
Q 5	3.	あまり思わない	0	0
Q 5	4.	そう思わない	0	0
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6	1.	そう思う	0	0
Q 6	2.	やや思う	1	1
Q 6	3.	あまり思わない	0	0
Q 6	4.	そう思わない	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1.	そう思う	1	1
Q 7	2.	やや思う	0	0
Q 7	3.	あまり思わない	0	0
Q 7	4.	そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例	毎回、課題探究型の授業で、グループでの共同学習をできるだけ多く取り入れている。また、毎時間、ワークシートを工夫することで、新しい教育評価に沿った授業を実践するようにしている。	学生の習熟度に合わせた課題設定。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1.	そう思う	1	0
Q 9	2.	やや思う	0	1
Q 9	3.	あまり思わない	0	0
Q 9	4.	そう思わない	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的		
Q 10		具体的事例	学生により、授業評価にばらつきがあった。原因をさぐり、できるだけ個の学生に応じた指導を心掛けたい。	授業の予習、復習の準備の項目が低かったので、次年度には改善したい。

	年度	2019	2019
	期	後期	後期
Q 1	授業者	秋吉博之	秋吉博之
Q 1	授業名	生活II	子どもと環境
Q 2	授業の形態		
Q 2	1. 講義	1	1
Q 2	2. 演習	1	1
Q 2	3. 実験	0	0
Q 2	4. 実習・実技	0	0
Q 3	成績評価の方法		
Q 3	1. 期末試験	1	1
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q 3	3. レポート	1	1
Q 3	4. その他 具体的に：		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1. そう思う	1	1
Q 4	2. やや思う	0	0
Q 4	3. あまり思わない	0	0
Q 4	4. そう思わない	0	0
Q 4	5. 該当しない	0	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1. そう思う	1	1
Q 5	2. やや思う	0	0
Q 5	3. あまり思わない	0	0
Q 5	4. そう思わない	0	0
Q 6	シラバス等の工夫		
Q 6	1. そう思う	1	1
Q 6	2. やや思う	0	0
Q 6	3. あまり思わない	0	0
Q 6	4. そう思わない	0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1. そう思う	1	1
Q 7	2. やや思う	0	0
Q 7	3. あまり思わない	0	0
Q 7	4. そう思わない	0	0
Q 8	改善や工夫の具体的事例		
Q 8	具体的事例	学生の主体的な活動を多く取り入れるようにして、互いに学びあう機会が設定できた。	学生の主体的な活動を多く取り入れ、学生が相互に学びあう場面を設定した。少人数であり、指導も行き届き成果をあげることができた。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1. そう思う	1	0
Q 9	2. やや思う	0	1
Q 9	3. あまり思わない	0	0
Q 9	4. そう思わない	0	0
Q 10	改善点があれば 具体的		
Q 10	具体的事例	受講者が多く、個別の指導が徹底できなかった。今後グループ毎に指導を行うなど指導方法の改善を行いたい。	予習や復習への取り組みをもっと設定するようにしたい。

	年度	2019
	期	後期
Q 1	授業者	小林 康宏
Q 1	授業名	子どもの言葉
Q 2	授業の形態	
Q 2	1. 講義	0
Q 2	2. 演習	1
Q 2	3. 実験	0
Q 2	4. 実習・実技	0
Q 3	成績評価の方法	
Q 3	1. 期末試験	1
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1
Q 3	3. レポート	1
Q 3	4. その他 具体的に：	毎時間の振り返りの内容
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q 4	1. そう思う	1
Q 4	2. やや思う	0
Q 4	3. あまり思わない	0
Q 4	4. そう思わない	0
Q 4	5. 該当しない	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫	
Q 5	1. そう思う	1
Q 5	2. やや思う	0
Q 5	3. あまり思わない	0
Q 5	4. そう思わない	0
Q 6	シラバス等の工夫	
Q 6	1. そう思う	1
Q 6	2. やや思う	0
Q 6	3. あまり思わない	0
Q 6	4. そう思わない	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q 7	1. そう思う	1
Q 7	2. やや思う	0
Q 7	3. あまり思わない	0
Q 7	4. そう思わない	0
Q 8	改善や工夫の具体的事例	
Q 8	具体的事例	・授業の進度が速いというお声に応え、学生がノートをしっかりとっていることを確認したり、次に進んでよいか聞いたりしました。 ・説明は極力少なくして、学生に考えてもらい、話し合ってもらう機会を多く取りました。互いの考えを聞くことは興味の持てる活動ですので、そういった活動を多くすることにより、意欲の喚起を図りました。 ・予習、復習クイズを毎行い、楽しく予習や復習ができるよう努めました。 ・抽象的なことで理解するのではなく、できるだけ具体的な場面について考えさせ、実感的に理解できるようにしました。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q 9	1. そう思う	0
Q 9	2. やや思う	0
Q 9	3. あまり思わない	1
Q 9	4. そう思わない	0
Q 10	改善点があれば 具体的	
Q 10	具体的事例	

		年度	2019	2019
		期	後期	後期
Q 1		授業者	戸潤幸夫	桐山由香
Q 1		授業名	子どもの表現 I	子どもの表現 I
Q 2		授業の形態		
Q 2	1.	講義	0	0
Q 2	2.	演習	1	1
Q 2	3.	実験	0	0
Q 2	4.	実習・実技	0	0
Q 3		成績評価の方法		
Q 3	1.	期末試験	0	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0	1
Q 3	3.	レポート	0	1
Q 3	4.	その他 具体的に：	学習への取り組み状況、制作物の評価、演習カード等	
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1.	そう思う	1	1
Q 4	2.	やや思う	0	0
Q 4	3.	あまり思わない	0	0
Q 4	4.	そう思わない	0	0
Q 4	5.	該当しない	0	0
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1.	そう思う	1	1
Q 5	2.	やや思う	0	0
Q 5	3.	あまり思わない	0	0
Q 5	4.	そう思わない	0	0
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6	1.	そう思う	0	0
Q 6	2.	やや思う	0	1
Q 6	3.	あまり思わない	1	0
Q 6	4.	そう思わない	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1.	そう思う	1	1
Q 7	2.	やや思う	0	0
Q 7	3.	あまり思わない	0	0
Q 7	4.	そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例	日々学生が積極的に授業が望めるように、現場で役立つ教材を開発している。また、学習環境をスムーズに作業に入れるように整えている。毎回現場で参考にできるように、演習カードを工夫し作成している。	学生には、教育・保育現場での事例を挙げ、子どもの姿を想定した取り組みについて教授した。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1.	そう思う	0	1
Q 9	2.	やや思う	1	0
Q 9	3.	あまり思わない	0	0
Q 9	4.	そう思わない	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的		
Q 10		具体的事例	学生の予習復習に対する項目が評価が低い点について、1回完結の授業展開を進めていることと、また、特別な材料や用具を扱うため家庭学習ができないことが要因と言える。次回のアイデアを考えてくることが事前学習である。	予習・復習についての取り組みが他の項目に比べて低いので、その点について、次年度は改善したい。

	年度	2019
	期	後期
Q 1	授業者	村上 凡子
Q 1	授業名	教育心理学
Q 2	授業の形態	
Q 2	1. 講義	0
Q 2	2. 演習	1
Q 2	3. 実験	0
Q 2	4. 実習・実技	0
Q 3	成績評価の方法	
Q 3	1. 期末試験	1
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1
Q 3	3. レポート	0
Q 3	4. その他 具体的に：	
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q 4	1. そう思う	0
Q 4	2. やや思う	0
Q 4	3. あまり思わない	0
Q 4	4. そう思わない	0
Q 4	5. 該当しない	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫	
Q 5	1. そう思う	1
Q 5	2. やや思う	0
Q 5	3. あまり思わない	0
Q 5	4. そう思わない	0
Q 6	シラバス等の工夫	
Q 6	1. そう思う	1
Q 6	2. やや思う	0
Q 6	3. あまり思わない	0
Q 6	4. そう思わない	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q 7	1. そう思う	0
Q 7	2. やや思う	1
Q 7	3. あまり思わない	0
Q 7	4. そう思わない	0
Q 8	改善や工夫の具体的事例	
Q 8	具体的事例	Q5 学修を支える脳の実行機能に配慮し、学びのユニバーサルデザインの原則を踏まえ、聞くだけの時間が長くないよう、意見交流、グループ討議、グループによる協同学習の学習形態を導入した。Q6 高等教育機関では国の内外を問わず、学生が予習、復習に取り組むことは当たり前のことである。中には予習、復習の時間をシラバスに明記している大学もある。それらを踏まえ、公式のシラバスをもとに独自に作成したシラバスを配布し、その回の授業のキーワードや専門用語を事前に提示した。また毎回の授業の最初に、当番制で全員に向けた復習問題の出題及び予習内容に関するコメントを発表する時間を設けた。さらに予習復習ノートを毎回確認し、承認の言葉とともに印を押した。Q7配布物をワークシートと資料に分け、資料はPDFファイル化し、前に提示した。予告式の小テストを2回実施し、専門的な知識の定着を図った。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q 9	1. そう思う	1
Q 9	2. やや思う	0
Q 9	3. あまり思わない	0
Q 9	4. そう思わない	0
Q 10	改善点があれば 具体的に	
Q 10	具体的事例	I、II、IIIの3つの分野において、学科の全体平均より上の値であるが、Iの意欲的な授業への取り組みの分野と比較し得、IIの内容の理解やIIIの成果が劣っている。その点を改善するために、心理学の専門分野の知見を学校教育の現場で生じている出来事と関連付けて説明することを意図的に行っていきたい。関連付けの具体的な方法として、月2回程度であるが、外部から派遣される学校支援者として授業を参観し、教員と協議を行う位階がある。そこでの経験を授業に還元することが該当する。また、理解度を確認し、知識としての定着を図るために、小テストだけではなく、毎回復習シートを準備し時間の終わりに取り組むような授業を展開していく予定である。

2. 事務部門における自己点検・評価

事務部門における自己点検・評価

学科・委員会・センター等

事務部(事務室(図書館・医務室含む)・教学センター)

今年度の改善目標

- ・ 学生への学修支援の開始及び今後の継続的維持体制の構築
- ・ 大学運営の事務(図書館・医務室含む)に関する体制の構築・維持
- ・ 大学施設の新設・維持・管理
- ・ 校内環境の維持管理の構築
- ・ SD の開始及び今後の継続的維持体制の構築

【実施内容】

【学生への学修支援の開始及び今後の継続的維持体制の構築】

- ・「学生ポータル」活用の教職員・学生への周知
- ・「大学等における修学支援制度」における機関要件の取得
- ・学生の成績評価における「GPA」の活用体制の構築を行った。
- ・4年間の継続的学修指導を実現するために「教職履修カルテ」の運用を始めた。

【大学運営の事務(図書館・医務室含む)に関する体制の構築・維持】

○事務職朝礼への出席

- ・日々の学校行事等(事務的な行事も含む)の確認を行い、事務職員間の連絡体制を継続して構築している。

○朝礼において、教授会審議事項の内容確認及び各部署の対応について周知している。

【大学施設の新設・維持・管理】

○2020年2月より3号館の改修工事を始めた。(旧幼稚園園舎)3号館は2020年10月より運用開始予定

○2号館の雨漏れ対策工事を実施

○2020年2月 体育館の床(ささくれ事故防止)研磨工事を実施した。

【校内環境の維持管理の構築】

○用務員を配置し、校内環境の維持管理を行っている。

【SD の開始及び今後の継続的維持体制の構築】

○FD・SD研修会を実施し、教職員合同で研修会を行った。

事務部門における自己点検・評価

- ・ 全教職員を対象にした建学の精神に関する研修会を、2019 年 6 月 24 日と 7 月 29 日に実施し、ほぼ全ての教職員が参加した。
- ・ 教育研究についての研修会を、9 月 30 日に実施した。
- ・ 11 月 21 日(木)～12 月 4 日(水)の期間において教員相互の授業参観を、全ての専任教員を対象に実施した。
- ・ 教育研究についての研修会を、9 月 30 日に実施した。
- ・ 2 月 17 日(月)地域に根ざした教育研究—センター及び事務部門等からの報告を実施。

評価

- ・ 令和元年は、開学元年でもあり、体制構築が急務であり、実施できた。
- ・ 事務部の目標には維持管理的要素が多く継続議題となる。

来年度の改善計画

令和 2 年度改善計画は以下の通りである。

- ・ 学生への学修支援の継続的維持
- ・ 大学運営の事務に関する体制の維持
- ・ 大学施設の維持・管理
- ・ 校内環境の維持管理
- ・ 継続的な SD の推進

令和 2 年 3 月 30 日

責任者職位・氏名

事務長 入江 保夫